

# 令和2年度 西東京市立柳沢小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** 思いやりのある子 深く考える子 きたえる子 行動する子

**目指す学校像(ビジョン)**  
 【目指す学校像】 児童が「分かる喜び・できる喜び」を味わえる学校 保護者が安心できる学校 地域が誇りに思う学校  
 【目指す児童・生徒像】 「よく学び よく遊び よく食べる」をキーワードとし、「知・徳・体」の調和のとれた生きる力をもつ子  
 【目指す教師像】 笑顔あふれる教師 児童の状況をしっかりと把握する教師 把握したことを踏まえた授業や指導を確実にを行う教師 児童の満足する姿に喜びをもつ教師

**前年度までの学校経営上の成果と課題**  
 高学年における各種学力調査は、全国や都の平均値を大幅に上回っている。しかし、「東京ベーシック・ドリル」の正答率や満点率は、学年が下がるにつれて、下がり気味の傾向にある。算数科における基礎基本の技能を全児童に習得させることが急務である。また、望ましい学習規律が身に付いていない児童に正しい姿や態度を確立させることも早急に解決しなければならない。

|          | 具体的方策  | 第1回評価 |      | 課題と対策  | 第2回評価 |      | 学校関係者評価  | 課題と次年度以降の対策   |
|----------|--|-------|------|--|-------|------|--|---|
|          |  | 努力目標  | 成果目標 |  | 努力目標  | 成果目標 |  |   |
| 確かな学力の向上 | 授業中、授業者や発表する友達の話をしっかりと聞かせる。                                | 4     | 4    | 対話的な話し合い活動が、コロナ対策のために制限があるからこそ、自分以外の人の話をしっかりと聞くこと、その話の内容を理解しようとする気持ちが重要になってくる。全児童が、このことを意識して、自然な姿で取り組めるよう、今後も指導していく。           | 4     | 4    | 先生方は、授業をした上で、児童に基礎的な学力が身に付いているかのチェックもしているのが子どもを通じて分かる。これを家庭とどう連携し、家庭学習の充実を図っていくかが重要である。学校での学習と家庭学習がリンクしてくると、子どもの学力はさらに向上するだろう。                     | 話し合い活動に制限がある中、感染症対策を講じながら、児童の考えを学級全体で共有する授業を展開してきた。次年度は、一人1台のタブレットが配付される。この機器を生かした学習の進め方を研究し、話し合い活動の質を高めていく。                                |
|          | 全児童が、該当年度の計算問題を確実にを行うことができる。                               | 4     | 3    | 1学期の算数科の「知識・技能」に関する平均正答率は、92.2%だった。「思考力・判断力・表現力」の育成も重要だが、その基礎となる力の習得率をさらに向上させたい。今後も確実な計算力の育成に向けて、朝の時間帯等を利用して、計算練習に取り組むようにする。   | 4     | 3    | 2学期以降の算数科の「知識・技能」に関する平均正答率は、89.5%だった。1学期に比べ、問題の内容や難易度が上がったが、自己の計算力や知識力の向上に児童が努めた。次年度も、計算を「まず正確に」「そして速く」をテーマに授業や隙間時間等を利用して、児童の基礎的・基本的な学力な学力の向上に努める。 |   |
| 豊かな心の育成  | 「相手の目を見て、一礼する挨拶」という新しい生活様式を全児童に徹底させる。                      | 3     | 3    | 例年、「元気な挨拶」を推奨していた中、コロナ対策の一環で、声の大きさではなく、相手の目を見て挨拶することを推奨している。表情や姿勢でも、自分の気持ちは相手に伝えることができることを今後も伝えていく。                            | 3     | 3    | 来校すると、挨拶をして子どもが多い。感染症対策のため、大きな声ではなく、目や姿勢、身振りで挨拶を励行していることはいいことである。また、地域から見ると、ご家庭で素敵な心を育てているのもよく分かる。   | この一年間で、「新しい挨拶の仕方」を身に付けることができた。声で表現する挨拶ももちろん大切だが、様々な方法で気持ちを伝えるスキルを児童は身に付けた。次年度も、感染症対策が続く限り、この様式を取り入れ、挨拶を徹底させていく。                             |
|          | いじめに関する調査を定期的を実施したり、日々の児童の言動の変化に気付いたりするなど、実態を把握し、組織的に対応する。 | 4     | 4    | 「いじめや暴言をしない」ことを徹底的に指導している。コロナ禍で、人の心や体はさらに疲弊する中、「あたたかい柳沢小学校」を目標に6月から指導してきた。今後、自分も他人も愛し、大切にできる人間の育成をしていく。                        | 4     | 4    | いじめの未然防止、早期発見・早期解決に努めてきた。相手の気持ちを考えながら、自分の思いを伝えることの大切さ、万が一、相手の心を傷つけてしまった際の対応の仕方を通年、指導してきた。次年度も、この方針は変えない。いじめのない学校を目指す。                              |   |
| 健やかな体の育成 | 芝生の校庭での遊びや運動を励行し、日常的に体力の向上を図る。                             | 4     | 3    | コロナ対策のため、全児童を同時に校庭で遊ばせないように工夫したり、体育の時間には、人との距離を保ちながらできる運動に特化し、取り組んだりしてきた。そのため、運動量は、例年よりも少ないことは否めない。今後、感染症防止を図りながらの活動となる。       | 3     | 3    | マラソン大会がなくなったのは残念だが、感染症対策を最優先しなければならぬため、仕方がない。ただし、体力の低下は心配である。  | 感染症対策のため、あらゆる競技等の制限があった。しかし、ルールを改善し、できるだけ動きを増やす工夫を児童とともに考え、実践してきた。次年度も、感染症対策を講じながら、体を思い切り動かすことができる運動を取り入れられるよう工夫していく。                       |
|          | 毎月の給食日より、日々の「食」の関する話を通して、食育を充実させ、児童が「朝ご飯」を毎日食べるように促す。      | 4     | 2    | 児童の「朝ご飯」の達成率を100%にしなければならない。今回は93%の達成率である。発達段階によっては、必要に応じて自分で朝ご飯を用意させたり、15分早めの起床を奨励したりしながら、朝ご飯をしっかりとらせたい。                      | 4     | 3    | 「保健だより」での朝ご飯に関する発信記事は、朝ご飯の達成率の向上につながったと思う。   | 児童の「朝ご飯」の達成率が95%を超えたが、目標は100%であり、満足はできない。次年度も「朝ご飯」の重要性を児童・保護者の皆様に様々な形で推奨していく。   |
| 開かれた学校   | 保護者目線にたち、必要な情報を早急にメール配信したり、学校HPに記載したり、学年だより等で知らせたりする。      | 4     | 4    | 市からの情報を早急に発信したり、学校の思いをメール配信したり、学校HPに記載したり。「一日1回」の発信を目標に、今後も情報を提供し、保護者の皆様とともに児童を育てていく。  | 4     | 4    | 感染症対策とはいえ、学校公開が中止となったのは残念。学校HPの毎日の更新は、凄いいことだと思う。これからも続けてほしい。   | 臨時休校時や運動会の開催の有無に関するメールを多発してしまったことを反省している。「体育発表会」以降は、必要に応じてメールを配信し、学校公開が中止となった今、少しでも学校の様子をお伝えしたいため、6月から「一日1回」学校HPで発信をしている。次年度も、継続していきたい。     |
|          | 地域人材を活用した授業等を各学年、年間指導計画に位置付け、確実に実施する。                      | 3     | 3    | 実際に授業が始まったのが6月であることから、この2か月で地域人材を活用するのは困難であった。また、コロナ感染予防の観点から、外部の方との交流を控えなければならない現状もあった。                                       | 3     | 3    | 何らかの形で、保護者ボランティアを募れば、少しでも子どもの様子を見せることにつながると思う。   | 感染症対策のため、こちらから訪問することは困難だったが、企業様側からご来校いただき、ゲストティーチャーとして児童が学ぶことが増えた。次年度も、企業様や地域の皆様との連携を深め、よりよい学習のあり方を考え、実践していく。                               |
| 働き方改革    | 各教職員の出勤時刻に合わせた、退勤限度時刻を設定し、遵守させる。                           | 4     | 1    | 「8時に出勤ならば、遅くても18時30分までには退勤」というベースを与え、各々が自分のライフスタイルに合わせた最長勤務時間を設定させてきた。しかし、コロナ対策による消毒作業等、教材研究や評価以外の作業が増え、「働き方改革」につながらないのが現状である。 | 3     | 2    | 毎日の消毒や感染症対策を講じている上での授業等、先生方の健康が心配である。職員室内の雰囲気がよく、ホッと安心する。  | 勤務時間は、8時15分から16時45分(45分間の休憩を含む)である。児童の登校時に通勤する教員がいるが、これは登校時の不審者への抑止力につながるものと考えている。教員自身のライフスタイルを考慮しつつ、時間外の勤務をできるだけ減少させながらも質の高い授業を提供できるようにする。 |
|          | 会議の精査や会議の適切な時間の設定、そのための提案の仕方の工夫に教職員一人一人が取り組む。              | 4     | 3    | 「本当に必要な会議や研修とは?」と、この状況下ゆえに見直しを図ることができた。その分、児童のために費やす時間の確保が多少できた。今後は、自治体主催の研修が復活してくるだろうが、その対応をしながら、作業時間の確保の工夫をしていく。             | 4     | 3    | 先生方も休めるときには、きちんと休んでほしいと願う。   | この一年間で、会議や研修が減少したことで、仕事に対する優先順位の付け方が適正に行えるようになった。教員としての指導力の向上を常に図りながら、児童の学習面や生活面の向上を第一にし、指導にあたることができるよう、次年度も会議等の精選を図っていく。                   |